

令和7年度第2回北海道立旭川美術館協議会議事録

- 1 日 時 令和8年3月6日(金) 13時00分～15時00分
- 2 場 所 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席委員 石前聖香(会長)、大石朋生(副会長)、浅野智子、阿部ひとみ、岸本恵理加、中村欣也、宮田琴羽、村中一徳、両瀬渉(12名中9名) <敬称略50音順>
- 4 傍聴者 なし
- 5 出席職員 館長 中村 聖司、副館長兼総務課長 中山雅博、学芸課長 寺地亜衣、主査 山岸由記、主事 岩田将平、学芸員 津田しおり、学芸員 浦島七那
- 6 議 事
- 館長挨拶、前回会議の委員意見への対応について報告を行い、会長の議事進行により、次の議事について、各委員に諮った。
- (1) 令和7年度(2025年度)事業実施状況について
- (2) 令和8年度(2026年度)事業運営計画について
- (3) その他(旭川美術館のミッション(使命))

委員	<p>～議事(1)について、配付資料に基づき、事務局から説明～</p> <p>〈意見、質問なし〉</p> <p>～議事(2)について、配付資料に基づき、事務局から説明～</p> <p>いろいろな人に身近に感じてもらうためには、SNSの力が大きいと感じている。旭川美術館のSNSでは、展覧会の準備風景などいくつか発信されていたが、もっと載せても良いのかなと思った。学芸員の姿を見せる、そのような発信方法が有効かと思う。学芸員の生の声、それぞれの分野について聞いてみたい。</p> <p>SNSをどれくらい来館者数に結びつけられるのかは難しいが、フォロワーを増やしていくことが大事。Xの約6,300人は多いと思う。</p> <p>今は、画像、写真よりも動画の時代。短い動画で、美術館のみなさんが準備している様子だとか、その中での声を聞けると身近に感じる。</p> <p>所蔵作品はどれくらい日の目を浴びているのか。今のSNSは展覧会の周知などが中心だが、今日の所蔵作品をシリーズ化し、学芸員が解説しながら紹介すると、700作品があるので、毎日1作品紹介しても2年継続できる。ネタ切れはなく所蔵作品を生かせることができる。</p>
会長	<p>具体的な助言をいただいた。学芸員にはいろいろな分野の専門があって、造詣が深いジャンルがあると思う。どういう勉強をしているのか、マニアックな話を聞いてみたいと思うことがある。</p> <p>アドバイスを次年度に盛り込んでいただけたらと思う。</p>

委員	<p>私の学校では、4年生がオンラインアート教室に参加した。美術館側が伝えたいことと子ども達の興味のあることとはちょっと違っていたかもしれないが、事前に打ち合わせをしっかりともらった。作品1つ1つをじっくり見て、作者の狙い等を汲み取るまではいかないが、工夫をしてもらってクイズ形式などで進めていただいた。オンラインアート教室の後、美術館へ行った児童も1名いる。第一歩かなと思う。小中学生に近寄りがたいものではなく、身近な所として「会いに行こう！アートになった動物たち」展は子ども達の興味を引くものだった。展示室に入ってすぐのシマウマを狙っているチーターの展示もインパクトがあった。展示の仕方も良かった。オンラインアート教室の間、学芸員はつきっきりで大変だと思うが、これからも少しずつ拡げていっていただけたらと思う。</p>
委員	<p>最初に15年ぶりに6万人突破、みなさんの日頃の成果であり、評価したい。</p> <p>「E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上」について、東川町にある町内会の親睦交流の事業として、社会見学ツアーを行っている。その中に美術館の入場が含まれていた。他の地域にも、紹介して拡げていきたい。</p> <p>老人福祉施設ではコロナ前にはデイサービスで健康な方々の余暇の過ごし方の援助で、買い物や道の駅へ行った。今後は美術館も組み込みたい。受入体制、車椅子など調整が必要となってくる。そのような機会も美術館での協力をお願いしたい。</p>
会長	<p>学校の子ども達だけではなく、市民団体であったり、高齢者で集客数を増やしていくヒントになるのではないかな。</p> <p>～議事(3)について、配付資料に基づき、事務局から説明～ 〈全体を通じて意見等を求める〉</p>
委員	<p>SNSでコメント返しをしないとHPと同じになってしまう。SNSは双方向だからこそ利点がある。「ご来館いただきありがとうございます」や「またお越しください」等の声かけがあるとファンが増えていくと感じる。集客の増に繋がっていないのは、そういった所も一つの理由かと思う。</p> <p>学芸員は我々の知らないすごいことを知っていると思う。アウトプットしてもらいたい。ショート動画で一言でもいただければ、見に行こうかなと思うきっかけになる。見どころ解説を特別展ごとに行っており、許されるのであれば動画にしても良いのではと思う。</p> <p>修復の必要な作品が3点とあるが、修復が必要な作品をあえて展示</p>

委員	<p>して見せる。修復のための協力金を募り、自分たちで財源を確保できる可能性はあるのかなと思う。</p> <p>「世界ネコ歩き2」展は借りるタイミングもあるだろうが、夏休みの方が子ども達も多く来られると思う。猫好きがいっぱい来る。猫を預かって良い場所とか猫を連れてきたい人とかに向け何かできないのかなと思う。「あにまある」（旭川市動物愛護センター）での里親募集とうまく連携してみてもどうか。</p> <p>ミッションについては、基本に立ち返ると、自分たちは何のためにやっているのかという点が大事なので、「我々は何々をします。」「このためにどのようなことをしていくのか」そういうところがあると市民の方にもわかりやすくなっていくのではないかな。</p> <p>SNS で動画を上げてみたらという意見は素晴らしいと思う。</p> <p>学芸員の研究調査の時間確保は困難というところで、今の展示に関係のある部分にスポットライトを当てて動画にしてみると良いかと思う。</p> <p>ミッションについて、旭川美術館は何をしたいかが具体的に見えて、どのように私たちが意見したら良いかわかった。消費者に寄りすぎず、自分たちの研究調査について少しずつ価値を付けていく流れで美術館としての役割を持っていきたいというように理解した。その部分については、来年度の展示も生かされていると感じる。どの展覧会も魅力的な展示会となっていて、どのように研究調査していきたいのか、今回の「砂澤ビッキの生きた時代」展でも見られるところがあって、おもしろい、熱意があると感じる事ができた。</p> <p>消費者に寄りすぎないところをあえて作って、発信できるような展示があると知識欲を求める人は来ると思う。</p>
委員	<p>令和8年度の「旭川のやきもの」展は、陶芸をやっているのも興味がある。旭川には陶芸をやっている方が多く、11月に陶芸フェスティバルを行っている。興味のある人が多い。北の嵐山にも窯元があり、いつも伺うが、時間の都合で1、2件しか見られない。一堂に見られることはないなので、非常に楽しみにしている。</p> <p>収蔵スペースの不足問題は、できるかどうかかわからないが、コンテナを利用するスペースを作って、そこに事務所を作る会社もある。新しく建てるより費用は抑えられる。</p>
委員	<p>喫茶コーナーについては、ボランティアが運営するくつろぎの空間として魅力向上に日々努力している。</p> <p>喫茶コーナーの満足度を上げるため、来年度はもっと努力していく。</p> <p>ミッションについては、館と話し合いながら、共に取り組んでいき</p>

委員	<p>たい。</p> <p>文化のランドマークとして、発信地、震源地としての役割を担っているとすると、どういうものが求められているのか、ファンをどう繋ぎ止めておくか論点整理と社会性が重要。</p> <p>今回のビッキ展は感動した。第1展示室から第2展示室までの動線が定まっていて、内容も深まっている。調査研究の推進で言うと氷華（館報）が良かった。酒井忠康（美術評論家・元世田谷美術館館長）先生の寄稿も良かった。調査研究をしっかりされていて、ビッキと言えば立体のイメージがあったが、平面も持ってきて意表をつかれ良かった。</p> <p>ミッションの案を見て、しっかりミッションが出来ていると考える。そこまで変える必要があるのだろうか。道北の美術や木の造形の従来のミッションが達成されている。さらに進化させていこうと考えたときに、1～3月の美術館の所蔵品を見せていくための重要な時期に、毎年何をやるのか楽しみしているが、来年度の展示が「旭川のやきもの」展は年を開けてから、やきものと木工芸を組み合わせる。工芸や立体は旭川の美術としては根幹をなすものなので、さらに陶芸まで枝葉をひろげている。</p> <p>岩合さんの写真は旭川美術館で見たことはなかった。東川は写真をやっているのに、なぜ写真展をやらないのか疑問だったが、すそ野は広がっている。それで十分ミッション達成されるので自信を持ってやっていただければ。</p> <p>キャッシュレス決済どのくらい進んでいるのか。展示会ごとに違うのであれば、インバンウンドを考えると、そこはマストになっていく。海外の人を中心に SNS で情報交流しているのでクリアしていくことが重要。</p> <p>陶芸でも触れたが、上野ファームや北の嵐山など、大型バスが狭い道にやってきて海外のお客さんがすごい数降りてきて見て帰って行く。美術館まで足を運ぶための動線って何かなとなると、アートは海外では工芸とクラフトとは違うので、あくまでクラフトベースで美術展をやっていると発信ができれば、興味をもって、日本の美術品はこういう価値観を持っていると提案できると思う。</p> <p>HP も多言語化されていて素晴らしい。リモート・ミュージアムも充実していて見応えもあるが、尺が長いので、30 秒や1分で見せると、若い世代、若年層にはサクサク見ていく。</p> <p>三岸好太郎美術館で展示をそのままアップロードされていた。旭川美術館でも即興性のあるものをやるのではなくて、作品のビューイングだけではなくて、美術性の中で、子ども達との活動をオンラインアートギャラリーの中でアップロードすると、それを見た人が身近に感じてもらえると思った。</p>
----	--

会長	<p>いろいろなアイデアがちりばめられた話だったと思う。</p> <p>旭川美術館のミッション使命を館長から話していただき、道北地域の中核美術館として発信地でありたいと言う熱い想いが伝わってきたお話だった。大変嬉しい発信を感じ取ることができた。</p> <p>(終 了)</p>
----	---